

令和7年度第1回伊賀市地域公共交通計画検討分科会 議事録

■開催日時 令和7年8月6日（水）午後1時30分～午後3時10分

■開催場所 伊賀市役所 5階 501会議室

■出席者（敬称略）

【委員】

辻本 勝久（和歌山大学）
川北 幸宏（三重交通株）
前田 敦志（三重県タクシー協会）
山本 いずみ（公募委員）
成底 正好（公募委員）
森 慶之（中部運輸局三重運輸支局）
中矢 裕丈（伊賀市地域力創造部長）

【事務局】

公共交通課 森地課長、中島主幹、中川係長、西條

■欠席者（敬称略）

【委員】市川 覚（伊賀鉄道株）

■傍聴人：3人

■会議概要

1. 開会

公共交通課 森地課長

2. 協議事項

（1）分科会長、副分科会長の選任について

| | |
|----|-------|
| 委員 | 事務局一任 |
|----|-------|

（事務局案）提示

| | |
|-------|------------------|
| 分科会長 | 辻本 勝久（和歌山大学経済学部） |
| 副分科会長 | 中矢 裕丈（伊賀市） |

【質疑応答】なし

【承認】

会長あいさつ

分科会長になりました辻本でございます。これから計画策定ということで、大変な作業になってこようかと思いますが、ぜひご協力賜りまして、よい計画にしていければと思います。

今の法律では、地域公共交通計画がまちづくりや福祉等他の分野と交通が連携して、関係者が協働することを促す司令塔であると位置づけられているようです。また、国ではガイダンスというものを作成しており、データを非常に重視しています。客観的かつ定量的なデータを活用し、現状と目指すべき姿にどのようなギャップがあるのかを明確にしたうえで、目標を設定して、実効性のある施策メニューを提示する方向性となっています。

令和9年度からの次期計画においても、その方向性のもと、伊賀市にふさわしい利便性、生産性、持続可能性の高い地域公共交通をつくれるような計画にしていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(2) 計画策定の流れについて

事務局から資料2に基づき説明。

| | |
|----------|--|
| 委員（市民公募） | 本日の資料は、まだ追記や微調整が可能なのか。 |
| 事務局 | まだ修正は可能です。 |
| 委員（市民公募） | 計画に追加したい内容等がある等の意見は協議会で出すという認識でよいか。 |
| 事務局 | 本協議会では、中間案を確認いただくこととなります。方針に修正等を加えるのであれば、この検討分科会で協議いただきたいものになります。 |
| 委員（市民公募） | 全国の事例で、評価が高かった公共交通のあり方等の調査や、情報収集するという点が不足しているのではないか。 |
| 事務局 | コンサルタント業者は、全国で計画策定に携わっています。多くの事例も知っていると思われることから、一緒になって進めたいと思います。 |
| 委員（市民公募） | この場にコンサルタントも同席してもらったほうが、もっとよい計画になると思う。 |
| 事務局 | 資料2の11ページに記載があります、課題を整理した後に実際に行う事業を検討する際には、全国の事例を参照しながら、伊賀市にふさわしい施策を決めていくことになると思います。 |

| | |
|-----------------|--|
| <p>委員（市民公募）</p> | <p>これまでも、このような計画を策定されていることもあり、アンケートで全体を見て進めていくのだろうとは理解できる。ただ、私が委員に応募した理由として、このようなアンケートにも載ることができない地域に住んでいることがある。だんだん年をとり、公共交通を使う方が安全だと思うのだが、例えばこの会議に出席するためには、行政バスの朝8時台の便に乗って、乗り継いで市役所に11時に着く方法しかない。そして帰りは、3時半に出ないと、帰れない場所から来ている。私たちの地域では、このようなアンケートに答えようがない。限られた予算のなかで、アンケートによって市民の多数の意見を把握する必要性はわかる。昨今はSDGsの考え方で「誰一人取り残さない」と言われるが、アンケートではわからない、交通の問題ではきっと取り残されてしまう少数の意見があると思う。</p> <p>私自身は、出かけるのも好きで、ICカードも利用している。時間にも少しゆとりが出てきたので、新堂駅前の図書館へ一度行政バスで行ってみようと思いついた。自家用車で行けば20分もかからない距離だが、行政バスだと1時間かかった。帰りも、便が限られているので、図書館とオークワで買い物をして帰るしかなかった。自分が便利に使えなかったものを、隣近所の人を誘って、一緒に乗ろうとは言いにくい。利用者を多くしなければ廃止される。でもこの考えを、まず他の人に理解してもらわなければ、一緒に利用することは難しい。自分自身で葛藤している部分である。便数を増やしてもらうためには、乗車人数を増やさないといけない。</p> <p>アンケートに反映されない意見や考えがあることを、知っておいてもらいたい、というのがひとつ。</p> <p>また、計画の中で考えていただけのことだと思うが、以前から運転手の問題もあり、いろいろな地域でいろいろな方法で移動手段等を確保している。私の地域でも、福祉部会で病院への送迎だけは確保しているが、限界もある。まち協の会長さんや、地域の役員の方など、考えてくれているとは思いますが、なかなか一般の住民にわかりにくい部分もあると感じている。私自身がいろいろな資料をいただきながら、地域に還元できるようにと思って会議に参加している。</p> <p>90歳以上の方でも、居住地によってはコンビニまで4キロ以上あり、自家用車がなければ生活できないところもある。私としては、免許返納してもらってバスなどを利用してほしい</p> |
|-----------------|--|

とも思うが、たちまち返納を勧めることもできない状況で、切実である。

乗車を増やすためのイベントも多く行われていて、先日の西山ウォーキングにも参加したが、年間計画が予めわかっていると参加しやすいと思う。

伊賀鉄道で言うと、忍者ラッピングの車両に乗りたいたっても、運行計画が前日にしかわからない。地域で子どもたちのためのイベントを企画しようと思っても、前日では計画できない。夏休みだけでも子どもたちに公共交通を利用してもらいたいと考えているので、検討してもらえたらと思う。

今、駅には「関西万博へ関西本線で行こう！」というポスターが掲示されている。私の最寄り駅は新堂駅か柘植駅で、日帰りの場合は最終8時過ぎには乗らないと帰ってくるのができない。駐車場に車を置いて行こうとしても、草津線で行って関西本線で帰ってくる場合は使いにくい。伊賀市だけではどうにもならないことはわかっているが、接続も問題だと思う。

どうやって活性化していこうと考えてくれているのかはわからないが、利用促進のための会議や組織もあると思う。最近では伊賀もそういったイベントが増えてきたようにも思う。

あと、これは組織の代表として来てくださっている方へ言いたいことになるが、この委員になる前の2月、タクシーに久しぶりに乗ろうと思い伊賀上野駅で電車を降りた。そこで初めてタクシーが駅前に停まっていないことを知った。伊賀鉄道で上野市駅へ行ったが、そこでもタクシーは停まっていなかった。事務所に電気がついていたタクシー会社があったので尋ねると、午後7時以降は伊賀上野駅前に停まっていないとのことだった。待ち時間が長かったため、中型や小型、長谷園までの運賃の目安などが書かれたタクシーの案内表示を見ていた。運転手の方に聞くと、現在は中型小型の区別はないと言われた。案内表示と実態があっていなかった。5月にもう一度その案内表示を見たが、2月のときのままであった。観光客の方などは、そういった案内表示で情報を得ると思うので、誤った案内をしてしまっている。

この会議の場は、そういったことを協議するところではないと思うが、計画を読んで、すごく内容を綿密に考えてくれているのに、計画につながる実働の部分が機能していないと、とてももったいないと感じた。

| | |
|----------|--|
| 会長 | <p>これからの計画策定のヒントになるようなことを多く提言いただけたと思う。「誰一人取り残されない交通」「アンケートだけでは把握できない課題の丁寧な把握が大事」「イベント等とのスケジュールの調整」「情報の出し方が大事」「接続や乗継の改善」「タクシーの利便性の向上」「情報提供の課題」など大切なキーワードが多くあった。ぜひ活かして計画策定につなげていければと思うし、今すぐにできることもある。</p> |
| 事務局 | <p>公共交通は、利用しなければ知らないことや、わからないことが多いと思います。わかりやすく情報発信していくことが何より大切だと思うので、どのような課題があって、解決するにはどのような取り組みが必要であるのか、まずは整理し、実行していきたいと考えます。</p> <p>また、日常から公共交通を使って、周りの人にも紹介するといった、委員が普段から行動していただいている取り組みが、広がっていくように考えていければと思います。</p> <p>伊賀鉄道に関しては、限られた車両台数で運用し、運行する車両をそのときの整備状況等で走らせているため、なかなか事前に計画できないという実情があります。ただ、ご指摘のように、忍者のラッピング車両を事前に予告できたら、一番いいと思います。楽しみにしていただいている方もいてくださると言っていたので、伊賀鉄道とも相談して、できることから、行ってきたいと思います。</p> |
| 委員（市民公募） | <p>伊賀鉄道も観光とタイアップして、くのいちのグランドをもっとPRするとか、夏休みに子どもたちが忍者の電車に乗って、いろいろな楽しみとつなげられたらいいと思う。</p> |

| | |
|----------|--|
| 委員（三重交通） | <p>高校生のアンケートについて、2年生が対象とあるが、1年生を対象としない理由はあるのか。せっかくなら1年生にもアンケートを取ればよいのではないか。</p> <p>あと、地域部会の意見照会について、6地域とあるが、どのような形式で行うのか。</p> |
| 事務局 | <p>高校生アンケートについては、ご指摘のとおり1年生にも行う方向で検討させていただきます。</p> <p>地域部会についてですが、アンケート調査やビッグデータなどから把握した課題について、地域別に整理した資料を確認いただきながら、話し合いたいと考えています。</p> |
| 委員（三重交） | <p>先ほどもあったように、バスや鉄道を使うのになかなか不便</p> |

| | |
|-----|--|
| 通) | な地域があると思う。データを基に、地区の生の声を聞いていただいた方がわかりやすいのではないかと。公共交通があるのに、利用しない理由は何か。おそらく時間の関係や、目的地までの移動が徒歩になるため、といった理由が見えてくるのではないかと思う。懇談会など、直接意見を聞く場を設けたらどうか。 |
| 事務局 | 地域部会は、それぞれの地域に行って、資料を基に意見を聞く形式になります。 |

| | |
|----------|--|
| 委員（市民公募） | 他の事業で実施されたアンケートやヒアリングによって得られたデータがあると思うが、それも参考資料として活用するという認識でよいか。 |
| 事務局 | 庁内ですでに実施したアンケート調査（まちづくりアンケートや都市計画策定時や伊賀鉄道の再構築計画策定時に実施したものなど）について、使えるものはできるだけ利用して進めたいと考えています。 |

| | |
|----------|--|
| 会長 | 先ほどの意見の「生の声を」という点が、とても大切だと思った。地域部会で足りるのかと。 |
| 委員（市民公募） | そう思う。地域によって仕組みが違う。上層部で議論されている内容が、なかなか一般市民まで共有されない。総合計画の会議でも発言したが、仕組みづくりが必要だと思う。回覧板でアンケートを実施すればよい。どうしても他人ごとになってしまおうと思う。アンケートの取り方次第で、多くの声が拾えると思う。 |
| 事務局 | 今後、地域で意見を取りまとめる組織の強化もしたいと考えており、地域部会をベースに意見を集めたいという思いがあります。 |
| 委員（市民公募） | 交通の問題が一番大切だと思うので、きめ細やかな情報収集が必要だと思う。 |
| 事務局 | 地域部会自体が、それぞれに置かれている地域の課題をもとに、地域公共交通計画は10年の計画になりますので、未来、今後の自分たちの地域の交通をどのようにしていきたいか、ということを検討いただくものになります。アンケート結果を見てどう思うか、だけではなく、各地域の課題、例えば行政バスで支所まで40分かかかるような交通はいかがか、どう改善してくのか、などを協議いただく場が地域部会だと考えていますので、事前にテーマを投げかけながら、議論ができれば |

| | |
|----------|--|
| | ばと思います。 |
| 委員（市民公募） | クエッションが多ければ多いほど課題の糸口は見つかると思うし、ジャンル分けもしやすくなると思う。如何にして集票、声を拾っていくかを考えてくれていればよい。 |
| 事務局 | できるだけ考える当事者を増やしていけるような意見の集約の仕方に努めたいと思います。 |

| | |
|----------|---|
| 委員（市民公募） | 現状走行している路線があると思うが、その道路が構造計算上クリアしているのか、今までの慣例で通っているのかを考えなければいけないのではないかな。重量計算はクリアしているのかなど。近年は全国で下水道の破損といった事例も出てきている。もし道路の構造上、条件を満たしていなくて、でもその路線が必要ということであれば、集客人数によって車両を変更するなど、そういうことも検討課題としたほうがよいのではないかな。道路補修工事も費用がかかる問題でもある。見直しながら進めるべきではないかな。 |
| 会長 | 道路関係のデータは、GISに載っているのか。 |
| 事務局 | すぐにはわかりかねます。 |
| 委員（市民公募） | 三重県と市の基準は違うのかもしれない。地域でも議題として出してはいるのだが、大型の車両が通ると道路のひび割れがどんどんひどくなっている。行政に整理して、考えてほしい。 |
| 事務局 | 道路規格については、市道・農道であれば、市でわかります。規格上、農道での大型バスの定期運行はあまり適さないと聞いたことがあり、バスを走らせる際は、道路規格に問題がないかも考慮しながら検討することになると思います。 |
| 委員（市民公募） | 幅員の問題もある。狭い道を時速40キロ以上で走る車両もいる。 |
| 委員（国） | 基本的に三重交通などのいわゆる4条路線で、大型のバスを走らせる場合は、道路管理者、また交通安全上であれば警察へ照会の上、基準に沿っていれば通行しているものになる。今後、たとえば地盤沈下する、などといった事象に対しては、なかなかこの公共交通会議の中で議論するのは難しい。国、県、市、それぞれの道路部局で検査、確認、点検等されるものであり、なかなかそれをこの場で議論するのはやはり難しいと思う。 |
| 委員（市民公募） | 三重交通は基準をクリアしていると思う。それ以外の大型車両の通行が慣例化しているのが問題である。 |

| | |
|----------|--|
| 委員（国） | それはバス車両ですか。 |
| 委員（公募委員） | バス車両ではない。貨物車両。結構な重量物を載せた車が通っている。地域でも危機感を持っており、意見を出しているが、取り上げてもらえない。 |
| 委員（国） | 公共交通から外れると思うが、特殊車両については、国道であれば、許可をとって運行している。市道も同様で、基準に則って許可を取って運行していると思う。ただ、おっしゃるとおり、前からの慣例により無許可で通行して道路が傷んでいるようであれば、この場での議論ではないが、問題ではあると思う。 |
| 事務局 | 公共交通計画にどう、ということではないが、そのような心配があるということは道路部局にも情報共有させていただきます。 |
| 委員（公募委員） | それだけではなく、路線を変えることでニーズが拾えたり、もっと安全が担保される可能性があるということ。その方向性を検討するためにも、まずは実態を把握しないと、今後の交通を検討することに結びつかないと思う。 |
| 事務局 | まずは、そのような心配事があるというご意見を、道路部局に共有しつつ、交通計画に必要な部分は計画に盛り込めればと思います。 |

| | |
|-------|---|
| 委員（国） | 7ページの公共交通利用者アンケート調査について、どの程度の数を想定しているか。 |
| 事務局 | 現状、具体的な人数については決定していません。 |
| 委員（国） | 利用者は、鉄道とバスの利用者、ということか。 |
| 事務局 | そのように想定しています。 |
| 委員（国） | 市民アンケートについて、ハガキか調査票の送付か迷っているとの説明であったが、もう少し具体的に説明願いたい。 |
| 事務局 | 現状資料に記載している方法は、2,000世帯に紙ベースの調査票を郵送し、回答方法は、郵送での返信かWEBか、どちらかを選択してもらうものです。検討している方法は、1枚のハガキを多くの対象者に郵送し、回答は基本的にWEBで、希望者のみ紙で対応するというものです。この方法だと配布数が5,000世帯まで可能となり、幅広く意見を収集するために有効ではないかと、考えているものです。 |
| 委員（市） | 昨年まで総合計画策定に携わっており、市民へのまちづくりアンケートは、ハガキを郵送する方法で実施した。従来は、一通の封筒にアンケート用紙を封入し、返信用封筒で返信し |

| | |
|----------|---|
| | <p>てもらう方法で、1通にかかる経費も多く、回収率は5割弱ほどであった。コロナ禍でデジタル活用が進む中、ハガキを送付し、WEBで回答する方法を実験的に行ったところ、回答率は4割弱になったが、分母を多くできる効果があったのと、高齢の方へは個別で対応する旨を記載することで、特に問題は生じなかった。郵送で返信いただく場合は、アンケートを記入しても、投函することを忘れてしまうケースも多い。WEBだと時間もかからず、結果的に全世代バランスよく回答が収集できた。市としても、WEBでの回答方法にシフトしていきたいという考えもある。また、当市にはe-モニター制度という、意見を収集する登録制度もあり、それも活用できればと考えている。</p> <p>WEBであれば、外国籍の方でも、多少の誤訳はあると思うが、翻訳機能を活用して回答いただける効果も期待できる。老人ホームなどの施設にとっても、大きな厚みのある郵便物が複数届くより、ハガキの方が、負担感が緩和される効果もある。他の計画でも実績があるため、広く意見を聞くアンケートであれば、多くに配布し、アンケートで聞けない部分を地域で聞いていくなど、いろいろやりながら、100%ではないかもしれないが、最終的にある程度の民意がつかめている状況で課題が整理できれば一番よいと考える。</p> <p>またWEBであれば、回答が必要な項目が自動的に表示されるので、間違いが少ないという利点もある。</p> |
| 委員（国） | <p>すでに前例があるやり方であり、WEBで回答できない方へもフォローしていただけるとのことで、よいかと思う。</p> <p>公共交通を利用していない人へアンケート送付が偏る可能性も考えられるが、利用者へのアンケートも実施することで、フォローできていると思う。</p> |
| 委員（市） | <p>公共交通を实际利用いただいている方への過去のアンケート結果を見ていると、意外と満足度が高かったりする。使っていない人の不満足をどう解釈すべきなのかが難しい。必要ないから使っておらず満足していないのか、使っていないのか、使えないのか、という問題もある。</p> |
| 委員（市民公募） | <p>外からの意見はとらないのか。</p> |
| 事務局 | <p>利用者アンケートについては、住所は問いません。市民アンケートについては、伊賀市民が対象です。</p> |
| 委員（市） | <p>例えば、ホームページにアンケートを掲載し、市外の人を回</p> |

| | |
|-------|--|
| | 答できるようにしておけば、市外の方の意見として集めることも可能ではないか。コンサルタントと検討すればよいと思う。 |
| 委員（国） | 伊賀市の観光アプリはあるのか。あればそこにも掲載してみてはどうか。 |
| 事務局 | アプリはありません。「伊賀イド」というホームページがあります。 |

| | |
|-----|--|
| 会長 | 帰ってから気づいたことは、事務局に後日連絡してもよいか。8月20日夕方5時まで。 |
| 事務局 | わかりました。 |

【承認】

- (3) 今後のスケジュールについて
事務局から資料3に基づき説明。

【質疑応答】なし

【承認】

3. その他

| | |
|----------|--|
| 委員（市民公募） | 啓発という観点や、自分事としてみんなで考える、という視点からのお願いになる。甲賀市の令和6年12月の広報誌に「みんなで乗ろう草津線」という特集が掲載されていた。課題や、路線を残す必要性、一人1回乗ることによる効果などが記載されていて、わたしも1回草津線や関西本線、伊賀鉄道に乗ってみようと思ったきっかけとなった。同じように、乗ったら少しは貢献できるかも、と考える人がいるかもしれない。広報計画があり、すぐには無理かもしれないが、アンケートなど決まるまでに、一度計画についての記事を掲載してほしい。それと、甲賀市の広報誌には草津線に関するコーナーがいつもある。問題意識を持ってもらうためにも、毎号は無理でも、伊賀線のことなどの記事を掲載してもらえると、見る人は見ると思うし、自分たちでできることを、という意識につながったらよいと思う。 |
| 事務局 | 以前から広報いがに、2か月に1回、公共交通のコーナーがあり、記事を掲載しているので、そこで問題提起していけれ |

| | |
|----------|--|
| | ばと思います。 |
| 委員（市民公募） | 文言は短く、インパクトのある言葉を使ってほしい。 |
| 事務局 | アンケート実施前に特集を組むことは難しいですが、公共交通はずっと続く課題ですので、今後、特集記事について計画したいと思います。 |
| 委員（市民公募） | 「みんなで乗ろう関西本線」というリーフレットもわかりやすい。駅に設置してくれているが、回覧すればよいと思う。 |
| 事務局 | いろいろな媒体で公共交通について周知を試みてはいますが、効果的な方法が見つけられていないのが現状です。またいろいろご提案いただければと思います。 |

| | |
|-------|--|
| 委員（市） | 地域公共交通計画の「アップデートガイドンスVer1.0」（国土交通省）について、パソコンやタブレットに対応した、横長のA4サイズの資料となっている。市の総合計画も今回、横長のタイプで検討を進めている。概要版だけでも、縦長ではない仕様にするなど、検討したらよいと思った。パソコンでは、従来の縦長A4のサイズの資料は、見にくくなってしまふ。 |
|-------|--|

（終了）